



TITLE:

東南アジアの現地語文献のデジタル・アーカイブ化プロジェクト： 2013年度の活動紹介

AUTHOR(S):

山本, 博之

CITATION:

山本, 博之. 東南アジアの現地語文献のデジタル・アーカイブ化プロジェクト: 2013年度の活動紹介. CIAS discussion paper No.40: 「カラム」の時代Ⅴ--近代マレー・ムスリムの日常生活 2014, 40: 35-41

ISSUE DATE:

2014-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228608>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

東南アジアの現地語文献の デジタル・アーカイブ化プロジェクト

2013年度の活動紹介

山本 博之

ジャウィ（アラビア文字表記のマレー・インドネシア語）は、かつてマレーシアやインドネシアなどの東南アジア島嶼部で広く使われていたが、ローマ字化が進んで20世紀半ばまでには日常生活でほとんど使われなくなった。近年、マレーシアではジャウィの重要性が再認識され、小学校でジャウィの読み書きが教えられるようになったが、教材も一般の読み物も不足している。『カラム』は、当時の政治家や宗教的権威に批判的な態度を取ったためにマレーシアの公立図書館には体系的に収集・所蔵されていないが、同誌はマレーシアが独立を経て開発体制を迎える直前の20年にわたって刊行された雑誌で、当時の一般のムスリム住民の動向や考え方を知る貴重な資料である。京大地域研は、マレー語雑誌デジタル化プロジェクトを進め、マレーシアの研究・教育組織であるクラシカメディアの協力のもと、『カラム』のローマ字翻字と記事のデータベース化を進めてきた。

本研究プロジェクトは2013年度に一つの画期を迎えた。これまで本研究プロジェクトが進めてきた『カラム』の収集・デジタル化および記事のローマ字翻字をもとに、マレーシアでオリジナル版（ジャウィ版）とローマ字版を併記した復刻版が刊行されるとともに、イスラム雑誌『カラム』（1950～69年）を対象とする研究組織により『カラム』研究ジャーナルが創刊された。また、『カラム』のオリジナル誌面はすでに京大地域研のデータベースとして公開済みであるが、これをもとにジャウィ版とローマ字版を対照させたデータベース公開の準備が進められている。

これらの活動は年間を通じて進められたが、その全体をまとめてマレーシアで発表し、関係する各機関・個人とともに今後の展開を検討したのが2013年9月にマレーシアで行われた国際セミナーだった。以下では、まず9月の国際セミナーおよびそれに対する筆者の雑感を紹介した上で、それと一部重複する部分もあるが、項目ごとに今年度の活動内容を紹介したい。

1. 国際セミナー「伝統から将来へ」

2013年9月11日、京大地域研およびクラシカメディアらの共催により、マレーシア・クアラルンプールのプトラ・ホテルで国際セミナー「伝統から将来へ」(Dari Warisan ke Wawasan/ From Tradition to Vision)が開催された。この国際セミナーは、『カラム』の復刻版および電子版シリーズの刊行を発表し、あわせて地域情報学による文献保全と『カラム』研究を組み合わせたセミナーとして開催された。

京大地域研からは、林行夫センター長をはじめ、原正一郎副センター長、柳澤雅之（地域情報学プロジェクト代表）、ジュリアン・ブルドン（研究員）、坪井祐司（共同研究プロジェクト研究代表者）および筆者が参加し、東南アジアの現地語文書保全と教育・研究への活用および『カラム』記事分析によるマレーシア史の再検討について報告を行った。

特筆すべきこととして、『カラム』の創刊者で20年にわたって編集長として刊行を続けた故エドルスの4人の子息がセミナーに臨席し、地域研の林行夫センター長より『カラム』復刻版が贈呈された。エドルスの子息たちは、44年ぶりにデジタル版として復活した『カラム』を閲覧して、志半ばでたおれた亡き父の思いを語り合っていた。



国際セミナー「伝統から将来へ」参加者。左よりコタブク理事、エドルスの遺族、林行夫、ムハマド・シュクリ、筆者（2013年9月11日）



44年前の父親の仕事を振り返る創始者エドルスの遺族たち。
アフマド・ルトフィという筆名は息子(左側)の名前だった



オリジナル版(ジャウィ)とローマ字翻字版を見開きで配置した「カラム」デラックス復刻版(2013年9月刊行)

セミナーのある出席者は、自分が子どもの頃、雑誌を乱雑に扱って床に放ったままにしても叱られなかったけれど、『カラム』だけは放っておくと「これは遊びの書物ではない」と父親に叱られ、部屋の一段高いところにコーランと一緒に置かれたものだったと思い出を語り、『カラム』が「骨のある」雑誌だったことを紹介するとともに、この雑誌に絡めて父親の思い出を紹介した。

筆者がもともと『カラム』に関心を持ったのは、今日のマレーシアで広く見られるナショナリスト史観とは異なるマレーシア像が描かれていたためだった。創刊者のエドルスはカリマンタン島のバンジャルマシン生まれのアラブ系ムスリムで、マレー民族意識が高まりつつあった1930年代のシンガポールでマレー人コミュニティから排除され、自前の雑誌を創刊して誌面を通じてマレー民族主義ではなくムスリム同胞を呼びかけた。今日のマレーシアで高まっているマレー民族主義を相対化する上でも格好の資料である。

ところが、セミナーでは、マレーシアの若い研究者たちが『カラム』を紹介する際に、マレー民族意識の高揚のために書かれた雑誌として紹介していた。これは筆者の『カラム』理解と反対であり、その主張には全く納得できないが、『カラム』研究プロジェクトの発案者である私の意向を完全に無視して彼らなりの関心に即した読みが紹介されたことをたいへん頼もしく感じた。このように、もともと京大地域研が始めた『カラム』研究プロジェクトは、すでに現地社会のものとして動き始めている。『カラム』研究の学会ともいえるアカデミ・ジャウィ・マレーシアが設立され、『カラム』研究ジャーナルも創刊された。議論の下地は整ったため、今後は『カラム』の内容をめぐってマレーシアの人たちと大いに議論していきたい。

2. 『カラム』復刻版の刊行

(1) デラックス復刻版(京大地域研)

京大地域研では、『カラム』の創刊号(1950年7/8月刊行)から第77号(1956年12月刊行)までを6巻にまとめた『カラム』デラックス復刻版を刊行し、前述の国際セミナー「伝統から将来へ」で公開した。

『カラム』は、マレーシア・シンガポールの建国期に刊行されて幅広い読者層を得て、刊行時期も20年と長かったにもかかわらず、その後マレーシアやシンガポールでジャウィが日常的に使われなくなったために、雑誌の存在もほとんど忘れかけられていた雑誌である。地域研が主体となって『カラム』が体系的に収集され、ローマ字翻字によってジャウィが読めない人々にも内容が理解できる形で復刻されたことは、マレーシアやシンガポールの各地で暮らすエドルスの遺族たちにとって父エドルスのライフワークの全貌を初めて知る機会となったという。

デラックス復刻版は、左ページにジャウィで綴られたオリジナルの誌面を配し、右ページにローマ字翻字を並べて掲載した。ローマ字翻字版はオリジナルの誌面のデザインを崩さないようにレイアウトされており、ジャウィ版とローマ字版を対照させながら読むことができる。

(2) 復刻版シリーズ(クラシカメディア)

地域研のデラックス復刻版に着眼を得て、クラシカメディアは2014年3月にジャウィ版とローマ字版を見開きで併記させた復刻版シリーズの刊行を開始した。『カラム』はマレーシア・シンガポールの建国期にあたる1950年代および1960年代に刊行され、教育、政



京大地域研の協力によってクラシカメディアから『カラム』復刻版シリーズが刊行された。ジャウィ学習にも活用できる



『カラム』のコラムを電子版で順次刊行している。「独立インドネシアを訪ねる」(左)、「ナドラ」(右)

治、社会、家庭など広く社会一般の関心を反映した誌面づくりに特徴があり、建国から50年を経てマレーシア史の再評価が進められている今日のマレーシア社会からも高い関心が寄せられている。

第一期としてマレーシア社会の関心が高いマラヤ独立直後の1957年9月号から1958年1月号までの5号分を刊行し、以後、それに続く5号分ずつ刊行される。マレーシア国立図書館の協力のもと、マレーシア国内各地の公立図書館に収蔵される予定である。

京大地域研が刊行したデラックス復刻版から着想を得て、クラシカメディアによる復刻版シリーズでもジャウィ版とローマ字版が見開きで並べられている。ジャウィ版とローマ字版が併記されることで、ジャウィが読めない人にも『カラム』の記事が読めるだけでなく、ジャウィの学習にも役立てることができる。

3. 電子版『カラム』記事の刊行

連載コラムなどテーマごとに『カラム』記事を抜粋し、ローマ字版を編集した抜粋版『カラム』の刊行も行っている。電子書籍なのでスマートフォンやパソコンがあれば入手でき、また、特定のコラムや執筆者の記事の抜粋なのでページ数が多くなり、廉価で入手できることから、一般読者が手軽にカラムの内容を楽しむことができる。

第一期として2013年9月に3タイトルが刊行され、第二期として2013年12月に47タイトルが刊行された(附表参照)。これらはマレーシアの国立言語文化出版局(DBP)の教育・普及部門として2011年に新設されたコタブク(Kota Buku)のウェブサイトを通じて販売されている。最新の刊行状況はコタブクのウェブサイトを確認することができる。

4. ジャウィ教育・研究組織と学術雑誌の立ち上げ

(1) アカデミ・ジャウィ・マレーシア (Akademi Jawi Malaysia)

20世紀半ば以降、東南アジア各地でジャウィは日常的にはほとんど使用されなくなり、現在の若い世代にはジャウィが読めない人も少なくない。こうした事態を改善するため、マレーシアでは数年前に小中学校でジャウィ教育が導入されたが、適切な教材がないことが課題となっている。ジャウィの教材は、基礎的な読み書きを学ぶための簡単な文が並んだもので内容があまり興味を引かないものであるか、中東を舞台としたイスラム教に関する知識をジャウィで書いたもので宗教教育の色合いが濃いもののどちらかしかない。ジャウィで書かれた文献で、現実の自分たちの世界に根差した内容で読み物として楽しめる一般向けのジャウィ教材が求められている。国立言語出版局では、ローマ字で発表された小説をジャウィに翻字して刊行することを試みているが、もともとローマ字で書かれているものをあえてジャウィで読むことの意義がわかりにくく、また、長編小説だと読者が読む負担が大きく、価格の面でも敷居が高くなるとの懸念があり、ジャウィ翻字版を刊行しても制作費の回収が難しいと考えられている。

このような事態を改善するために、マレーシア教育省の著作権担当者の発案により2011年にアカデミ・ジャウィ・マレーシア(Akademi Jawi Malaysia)が設立された。言語教育や出版に関連する機関・団体が集まる緩やかな連合体で、マレーシア国立図書館、マレーシア国立言語出版局、コタブクなどが参加している。

(2) クラシカメディア

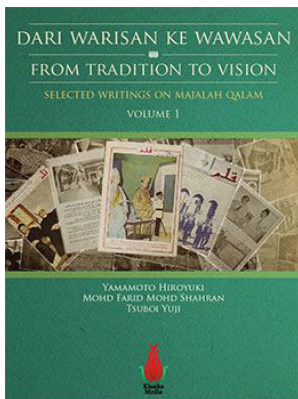
アカデミ・ジャウィ・マレーシアは法人格を持たない。その事務局機能を担うとともに、ジャウィに関する調査研究や教育を担当する組織として、アカデミ・ジャウィ・マレーシアとはほぼ同時期に設立されたのがクラシカメディア (Klasika Media) である。

クラシカメディアはマレーシアにおけるジャウィの教育・出版の促進を目的としており、ジャウィ文献の収集、翻字、調査・研究やセミナー・ワークショップの企画実施などを行っている。『カラム』のほか、マレーシア国立図書館が所蔵するジャウィ文献をローマ字に翻字するプロジェクトを請け負っている。2013年9月に京大地域研と学術交流・協力協定を結び、協力してジャウィに関する教材作りや研究を行っている。

(3) 学術雑誌の創刊

『カラム』の翻字プロジェクトの進展およびそれに伴うマレーシア側のジャウィ教育・研究制度の整備が進むなかで、『カラム』の研究を目的とした学術雑誌『Dari Warisan ke Wawasan』(伝統から将来へ)が創刊された。第1号は2013年9月に刊行され、第2号は2014年7月に刊行予定である。アカデミ・ジャウィ・マレーシア内に編集委員会を置き、一般の投稿を受け付け、査読を経て年に一号が刊行される。雑誌は電子書籍として刊行され、コタブクを通じて販売される。

第2号では、本研究班がセッション「From Tradition to Vision: Construction of Digital Archives of Jawi Periodicals for Contemporary Usage」を提供した日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業主催「イスラームと多元文化主義——イスラームとの共生に向けた基礎的研究」(早稲田大学イスラーム地域研究機構) 主催の国際セミナー「Islam and



学術雑誌『Dari Warisan ke Wawasan』
(伝統から将来へ)第1号(2013年9月刊)



アカデミ・ジャウィ・マレーシア主催のジャウィ・ワークショップ。ASEAN諸国からの留学生を含む80人が参加(2013年4月19～21日、マレーシア工科大学)

Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis』をもとにした論文が掲載される予定になっている。

5. ジャウィ文献講読ワークショップ

(1) 講習会の実施と教科書の作成(日本)

本研究プロジェクトが実施主体となって毎年開催してきたジャウィ文献講読講習会は、2013年度に5回目を迎えた。日本マレーシア学会(JAMS)や地域研究コンソーシアム(JCAS)などの国内の関連学会と連携して開催し、マレーシア研究者だけでなくインドネシア研究者や中東研究者からも幅広い関心を集めている。今年度は2013年10月13日、14日に東京外国語大学で開催した。

当初は東京大学駒場キャンパスで開催していたが、2011年度からは会場を東京外国語大学のマレーシア語科に移し、ジャウィ講読講習会用の特別教本『ジャウィを学ぶ——ジャウィ文献講読テキスト』を作成している。この教本は、初学者がジャウィ講読を体系的に学習できるだけでなく、ジャウィの歴史の変遷やジャウィ教育の現状、インドネシア・マレーシア地域の時代や地域や分野によって異なるジャウィ文献の例などを紹介し、ジャウィ学習の手引きとして幅広く活用できるよう工夫されている。

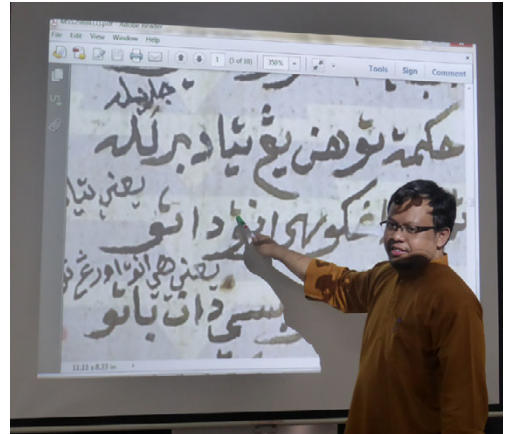
(2) ジャウィ翻字学習を通じた職能訓練と教養教育(マレーシア)

マレーシアでは、クラシカメディアが2014年から初級と中級のジャウィ翻字講習会を行っている。

初級(Bengkel Perumian Jawi)は毎月最終木曜日に行われ、第一回は2014年2月26日に開催された。各



参加者は文字を確定する作業を通じて教養を広げることになる
(初級ジャウィ翻字講習会)



ジャウィ講読では、正確な綴りを確定するために書き癖にも注意
する(中級ジャウィ翻字講習会)

回の参加者は8人を上限とし、クラシカメディアを会場として少人数教育で行われている。

第1回の参加者は8名(女性5名、男性3名)で、20代から30代のマレーシア国籍のマレー人だった。いずれも大学を卒業し、現在は事務職などに就いている。参加理由を尋ねてみると、ジャウィそのものに強い関心があるわけではないが、ジャウィの読み書きならできるし、ジャウィのローマ字翻字のアルバイトが副収入になるならありがたいという関心から参加した。

教材には『カラム』の記事を用い、参加者が一人ひとり当てられて誌面を読んでローマ字翻字する方法で進められた。いずれの参加者も、通常の文章は初見でもジャウィをほぼ問題なく読むことができた。地名や人名などの固有名詞、とりわけ欧米の地名や人名が出てくると簡単に読み進められなくなる。ただ文章を読んで理解するだけならば、わからない単語が一つか不達あっても飛ばして読めば文脈は理解できることが多いが、翻字するには正確な綴りを確定させなければならない。

ワークショップでは、これらの外来語や固有名詞、地名の翻字をどう確定させるかを検討した。外来語のうち英単語であれば日常的に使用しており学校でも学んでいるので翻字しやすいが、『カラム』には英単語由来の単語だけでなく、サンスクリット語起源の言葉や欧米の社会思想に由来する概念などさまざまな外来の言葉が登場する。表音文字であるジャウィで記されているために音はだいたいわかるし、前後の文脈から意味もだいたいわかるが、正しい綴りが何なのか確定できない単語がある。これらの綴りを確定させるために、インターネットで単語を検索して正しい綴りを探す工夫が教えられた。いくつかの選択肢から文脈に

即しているものを選ぶ上では、探している単語の意味内容についても理解が求められる。

ワークショップに参加したのはマレー人で、アラブ・中東やイスラム教、マレー文化についての知識は常識として持っているが、欧米の社会思想や東アジアの歴史やインド文明などについての知識は限られている。『カラム』を翻字する過程では、『カラム』に即した教養が求められる。翻字を確定させる過程で、結果として参加者は自身の教養を広げることになる。参加者の多くは大卒程度の若い世代で、よりよい就職先を求めて技術力アップのために講習会に参加していた。『カラム』の翻字は単にジャウィのローマ字翻字の能力を養成するだけでなく、参加者の教養の幅を広げる役割も果たしている。

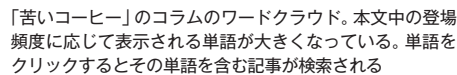
翻字を確定させるプロセスもユニークである。ワークショップ会場には各国語の辞書や各種の辞典が置かれているが、講習ではそれらに加えてインターネット検索の工夫に時間が割かれた。Wikipediaで綴りを確認している様子は一見するとお手軽な印象も与えるが、ジャウィをローマ字翻字するもとの理由が「機械検索の対象にするため」であることを考えるならば、インターネット上で多くの人が用いている綴りに揃えるのはきわめて合理的である。ローマ字の正書法は時代とともに変化するものであり、ここで求められているのは言語学的な正しさではなく機械検索の対象となるという意味での正しさであることが端的にあらわれていた。

中級(Bengkel Kefasihan Jawi)は、毎月第一木曜日に行われ、第一回は2014年3月5日に開催された。中級でも各回の参加者は8人を上限とし、クラシカメディアを会場として少人数教育で行われている。

6. 『カラム』記事データベース

データの性格や構造を理解している利用者にとってはアーカイブ型の検索で十分用が足りる。しかし、検索対象の内容や構造について不明な利用者は適切な検索ワードを定めることができない。こうした問題を解消する工夫の一つとして、ワードクラウドを活用した検索ワード提示型のインターフェースを作成した。特定のコラムの記事を集め、それらのコラムで使用頻度の高い単語を抽出し、使用頻度が高い語句ほど文字を大きく表示するワードクラウドの仕組みを利用して検索ワードを提示する。ワードクラウドの単語をクリックすると、その単語の検索結果のページに飛ぶように設定されている。

40 CIAS Discussion Paper No. 40 『カラム』の時代 V



コラム記事データベースは日本語版が2014年3月に公開された。マレー語版と英語版は2014年度中に公開される予定である。

附表 電子版『カラム』刊行タイトル一覧

第一期刊行
Perjuangan Kebangsaan di Malaya (マラヤにおける民族主義闘争)
Melawat Indonesia Merdeka (独立インドネシアを訪ねる)
Nadrah - Dari Kaca Mata Qalam (ナドラ——カラムから見る)
第二期刊行
Agama dan Kesannya dalam Jiwa
Bidasan Kepada Faham Tak Bertuhan - Sempadan Kebebasan Berfikir
Awat Fikiran yang Menyesatkan
'Aydil'-Adha
Wasiat yang Berharga - Khutbah Wida'
Mana Kita Hendak Dibawa - Persidangan Seruan-Seruan Islam Seluruh Asia
Berimanlah Kamu kepada Allah!
Bidasan kepada Faham Tak Bertuhan - Menyekutukan Tuhan
Haqq dan Kebebasan Perempuan - Perempuan Sesudah Baligh
Hari Raya - Orang-Orang Arab di dalam Jahiliyyah dan Islam
Inilah Makkah
Al-Azhar - Qiblat Pengajaran Dunia Islam
Abu Dhar al-Ghifari - Kalau Iman Sudah Mendalam
Ibnu Khaldun - Ahli Sejarah Islam yang Kebilangan
Haqq dan Kebebasan Perempuan - Siti Sarah Menunjukkan Teladan dan Ikutan-Ikutan
Riwayat Hidup 'Ulama Islam Yang Kebilangan_ Haji 'Abdul Manan Kelantan, Tuan Guru yang Berjasa
Bahasa Melayu - Ancaman terhadap Bahasa Melayu
Bahasa Melayu - Kedudukan Bahasa Melayu
Bahasa Melayu - Perkembangan Nahu Bahasa Melayu
Hal Ehwal Tanah Air - Bangsa Melayu Marilah Bersatu
Bahasa Melayu - Langgam Bahasa 'Arab dalam Bahasa Melayu
Kepada Sahabat-Sahabatku di Semenanjung
Cerita Pendek - Khayalku Atau Berhari Raya di Rantau Orang
Kejadian-Kejadian di dalam Dunia ini Adakah Kekal Selama-Lamanya_
Korban Cemburu atau Fir Muhammad-Zahrah Khatun
Gurindam Shurga
Cerita Pendek - Mana Si Awang
Kasih
Tuhanku
Bulan Safar
Apa yang Tuan Susahkan
Riwayat yang Bersejarah - Perempuan Dirasuk Iblis
Kejadian-Kejadian yang Dahshat di dalam Perang Dunia Kedua
Korea dan Riwayat Sekelilingnya
Nehru Diajak Berbuku Lima
Pertubuhan Siyasah Islam
Pengetahuan Umum - Masyumi Pertubuhan Siyasah yang Kuat di Indonesia
Mengambil Peluang Dengan Keadaan Malaya yang Bercampur Qawm
Hal Ehwal Tanah Air - Adakah Melayu Negeri antara Bangsa-Bangsa_
Ruangan Sejarah - Ringkasan Sejarah Perjuangan Indonesia
Pengetahuan Umum - Universiti Islam Indonesia
Menteri-Menteri Negara Persatuan Indonesia
Jeneral Douglas McArthur
Yakov Malik
Rohana Kudus - Srikandi Islam yang Pertama di Indonesia
Mawlana Malik Ibrahim - Penyebaran Islam yang Berjasa di Kepulauan Melayu
Sayyid Shaykh al-Hadi - Pujangga dan Pelopor Kesedaran Politik